

＜集計分析結果＞

(単純集計版)

在宅介護実態調査の集計結果

～第9期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和5年6月

＜宍粟市＞

調査実施の概要

1 調査の目的

宍粟市では、高齢者の健康づくり・介護予防の推進及び介護保険事業の円滑な実施を目的に、令和6年度から令和8年度までを期間とする「宍粟市高齢者福祉計画及び第9期宍粟市介護保険事業計画」の策定を進めています。

この計画を策定するにあたり、「高齢者等の在宅生活の継続」、「介護者の不安の軽減」等のテーマを基に分析を進め、今後の介護サービスのあり方を検討するため、「在宅介護実態調査」を実施しました。

2 調査の実施方法と配布・回収状況

- 調査地域：宍粟市内全域
- 調査対象者：宍粟市に居住し、在宅で生活している要支援・要介護認定を受けている者のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受けた者
- 調査項目：国が示す調査票のうち、基本調査項目（11問）、オプション項目（9問中9問）、市独自の調査項目（2問）
- 抽出方法：層化無作為抽出法による抽出
- 調査期間：令和4年12月9日～令和5年1月10日
- 調査方法：無記名式で、郵送配布・郵送回収又は電子回答
- 回収状況：配布数 1,000、有効回収数 625、回収率 62.5%

3 報告書の見方について

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても同様です。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

目次

1 基本調査項目（A票）	[P. 1]
(1) 調査票回答者	[P. 1]
(2) 世帯類型	[P. 1]
(3) 施設等検討の状況	[P. 2]
(4) 保険外の支援・サービスの利用状況	[P. 2]
(5) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	[P. 3]
(6) 本人が抱えている傷病	[P. 4]
(7) 訪問診療の利用の有無	[P. 5]
(8) 介護保険サービスの利用の有無	[P. 5]
(9) 介護保険サービス未利用の理由	[P. 6]
(10) 終末期（人生の最期）を過ごしたい場所	[P. 7]
(11) 家族等による介護の頻度	[P. 7]
2 主な介護者様用の調査項目（B票）	[P. 8]
(1) 介護のための離職の有無	[P. 8]
(2) 主な介護者の本人との関係	[P. 9]
(3) 主な介護者の性別	[P. 9]
(4) 主な介護者の年齢	[P. 10]
(5) 主な介護者が行っている介護	[P. 11]
(6) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	[P. 12]
(7) 主な介護者の勤務形態	[P. 13]
(8) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	[P. 14]
(9) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	[P. 15]
(10) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	[P. 16]
(11) 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと	[P. 16]
3 要介護認定データ	[P. 17]
(1) 年齢	[P. 17]
(2) 性別	[P. 17]
(3) 二次判定結果（要介護度）	[P. 18]
(4) サービス利用の組み合わせ	[P. 18]
(5) 訪問系サービスの合計利用回数	[P. 19]
(6) 通所系サービスの合計利用回数	[P. 20]
(7) 短期系サービスの合計利用回数	[P. 21]
(8) 障害高齢者の日常生活自立度	[P. 21]

(9) 認知症高齢者の日常生活自立度 [P. 22]

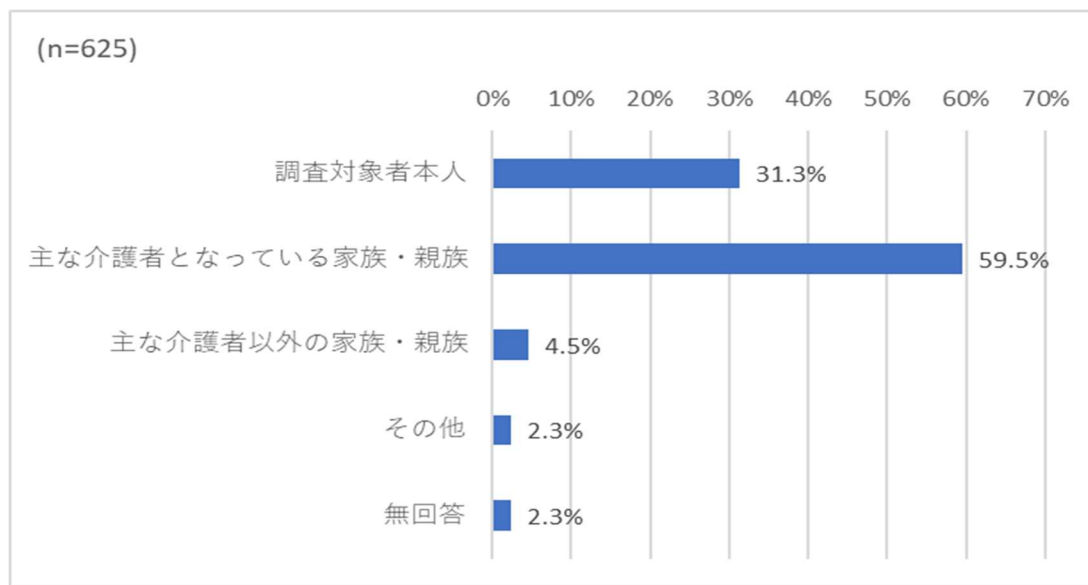
※図表タイトルの「★」はオプション調査項目、「☆」は市調査項目であることを示しています。

1 基本調査項目（A票）

(1) 調査票回答者

「主な介護者となっている家族・親族」の割合が最も高く 59.0%となっている。次いで、「調査対象者本人（29.9%）」、「主な介護者以外の家族・親族（4.3%）」となっている。

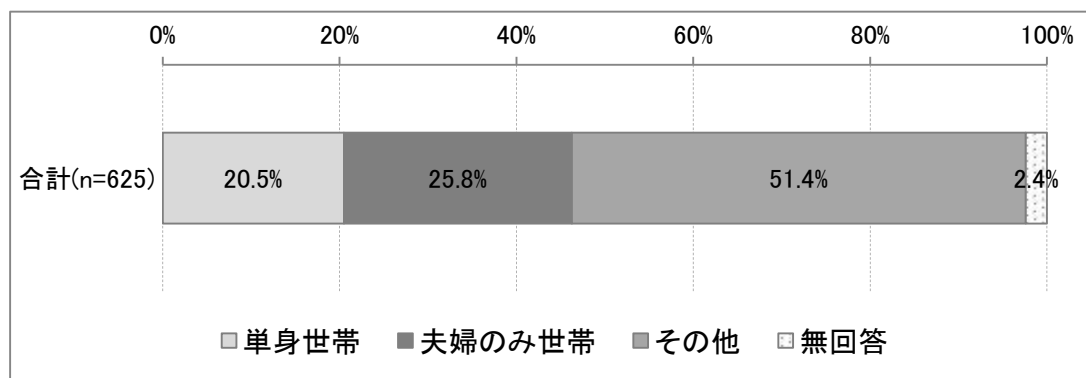
図表 1-1 調査票回答者（複数回答）



(2) 世帯類型

「その他」の割合が最も高く 51.4%となっている。次いで、「夫婦のみ世帯（25.8%）」、「単身世帯（20.5%）」となっている。

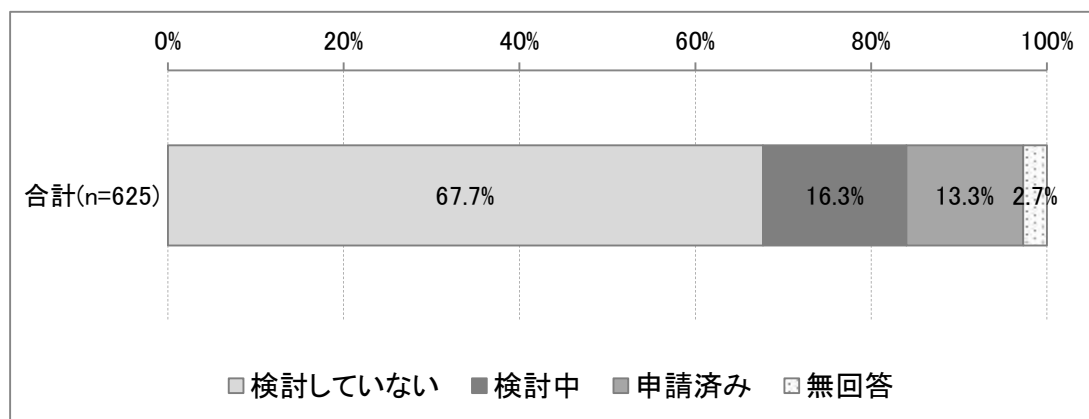
図表 1-2 世帯類型（単数回答）



(3) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 67.7%となっている。次いで、「検討中（16.3%）」、「申請済み（13.3%）」となっている。

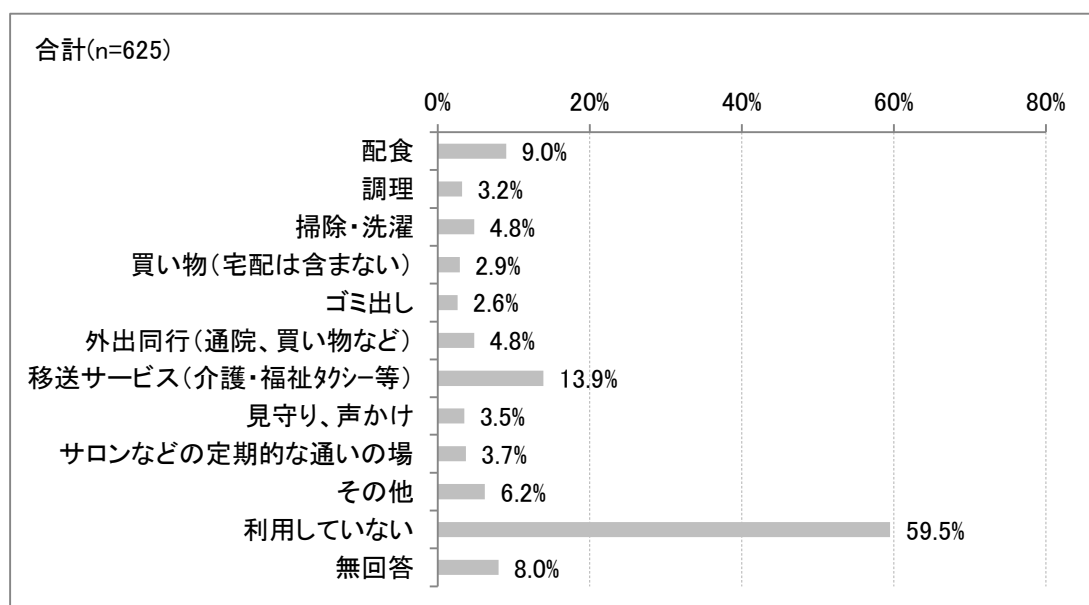
図表 1-3 施設等検討の状況（単数回答）



(4) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く 59.5%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（13.9%）」、「配食（9.0%）」となっている。

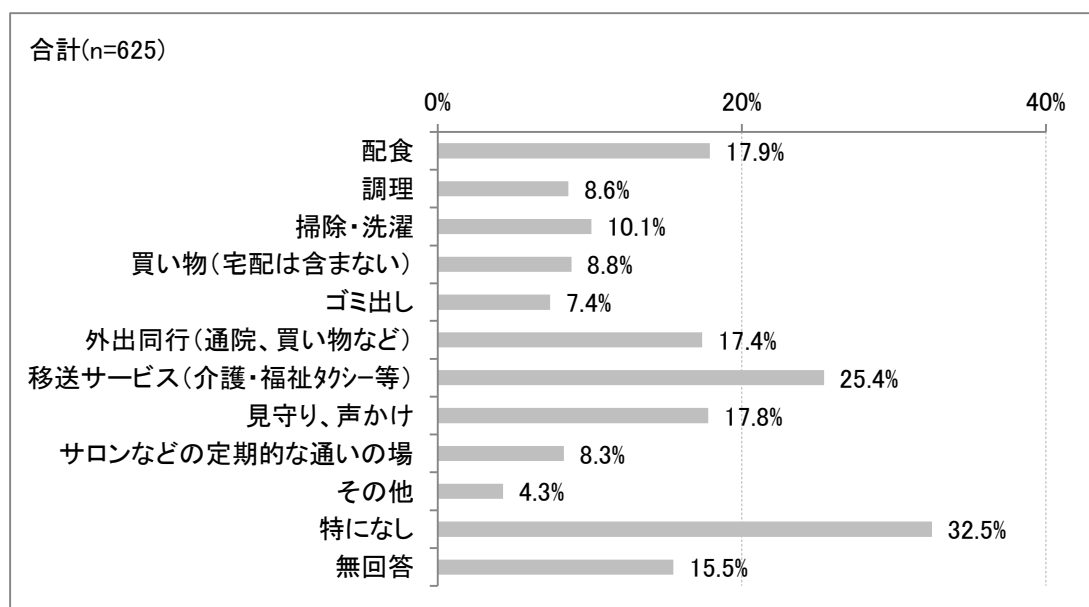
図表 1-4 ★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



(5) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「特になし」の割合が最も高く 32.5%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（25.4%）」、「配食（17.9%）」となっている。

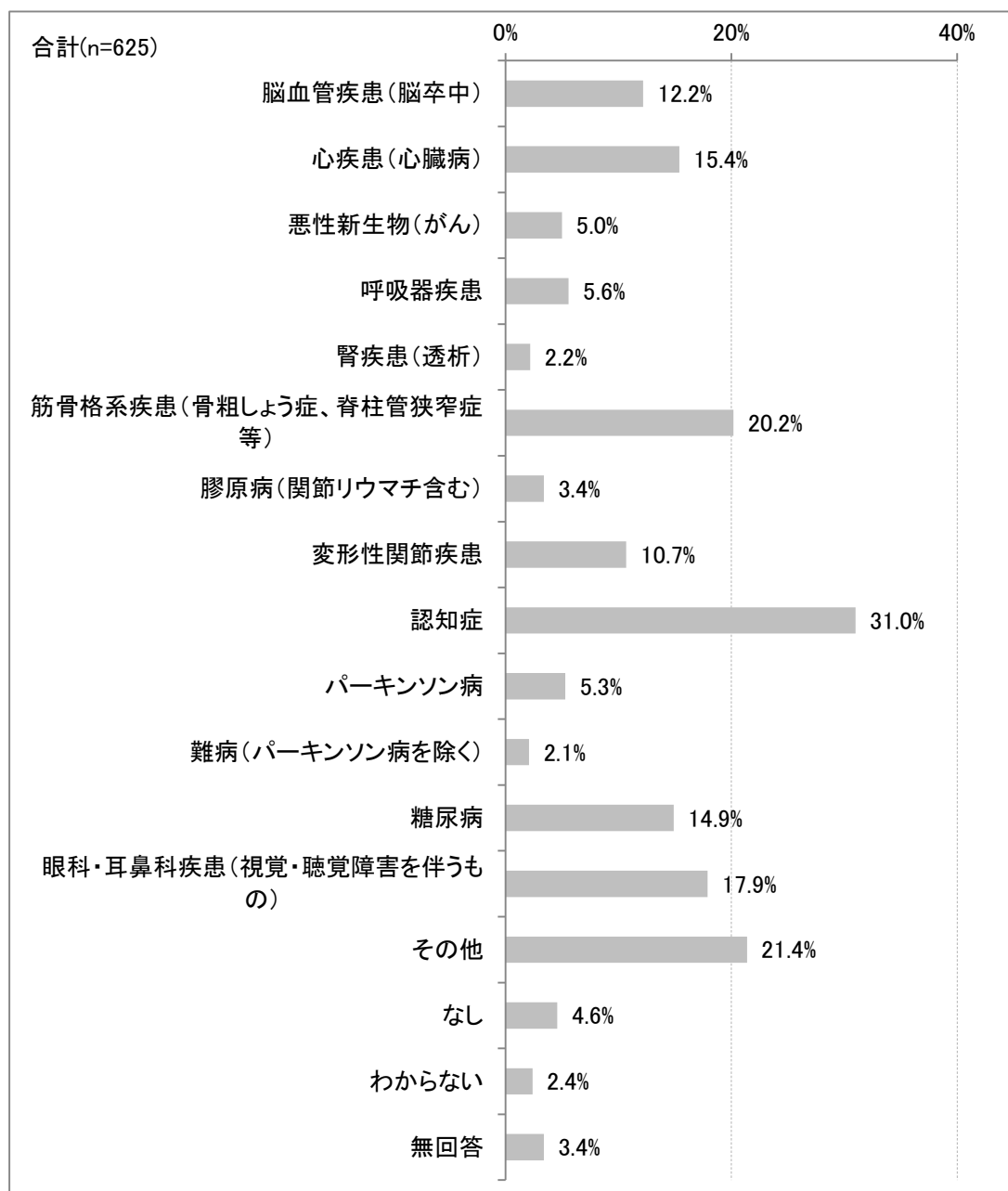
図表 1-5 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



(6) 本人が抱えている傷病

「認知症」の割合が最も高く 31.0%となっている。次いで、「その他 (21.4%)」、「筋骨格系疾患 (骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等) (20.2%)」となっている。

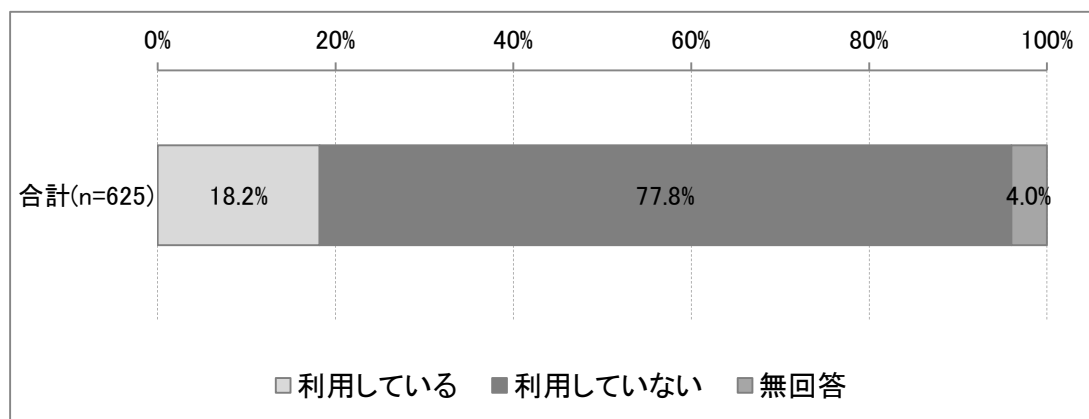
図表 1-6 ★本人が抱えている傷病 (複数回答)



(7) 訪問診療の利用の有無

「利用していない」の割合が最も高く 77.8%となっている。次いで、「利用している (18.2%)」となっている。

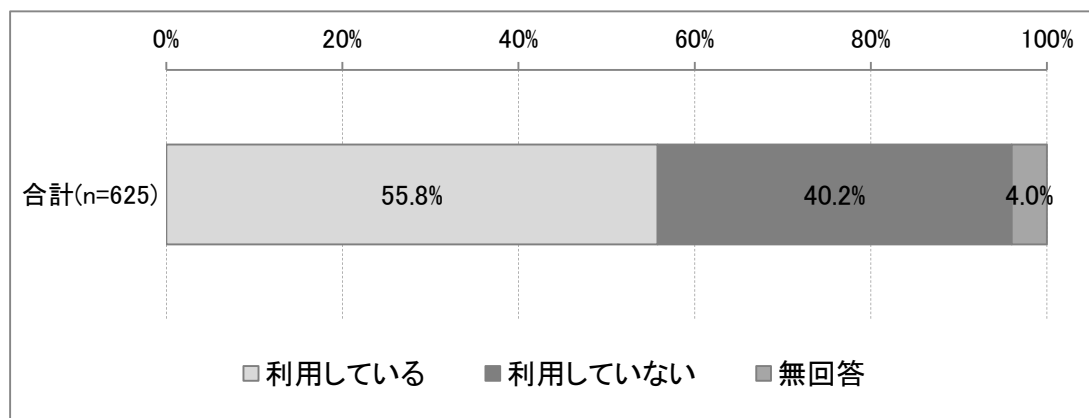
図表 1-7 ★訪問診療の利用の有無（単数回答）



(8) (令和4年11月) 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」の割合が最も高く 55.8%となっている。次いで、「利用していない (40.2%)」となっている。

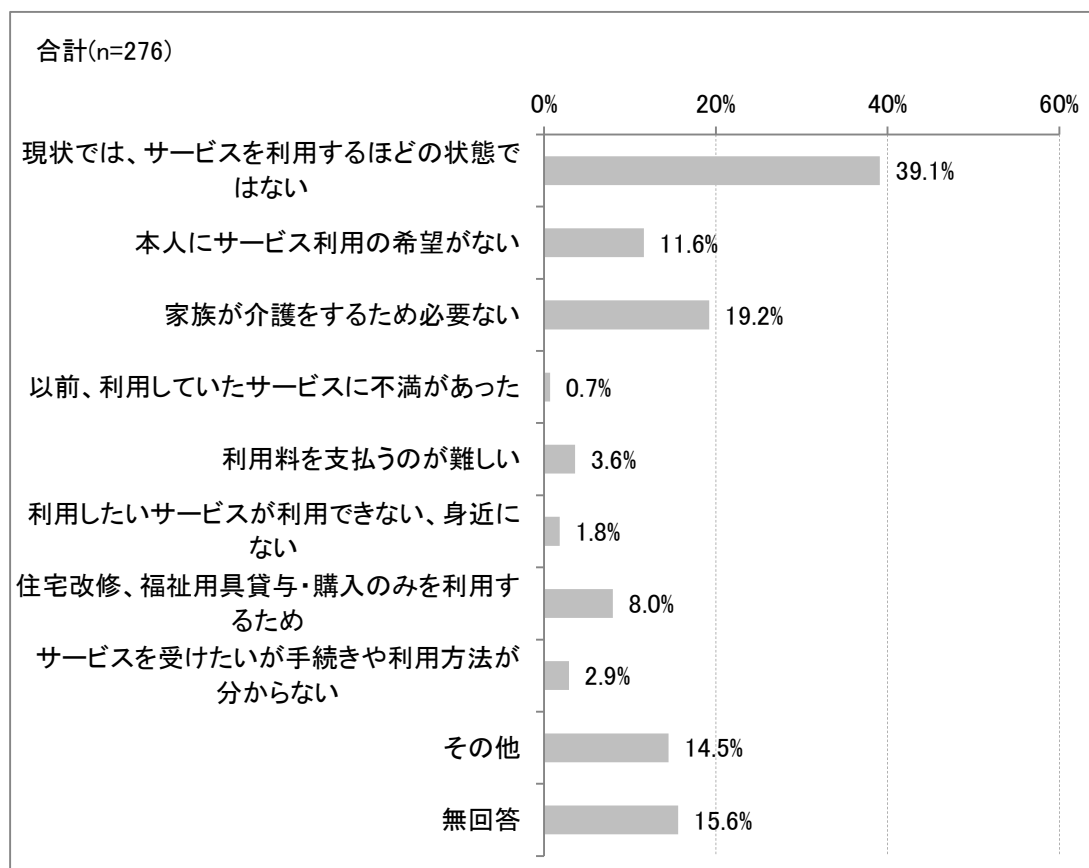
図表 1-8 ★介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



(9) 介護保険サービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く 39.1%となっている。次いで、「家族が介護をするため必要ない（19.2%）」、「その他（14.5%）」となっている。

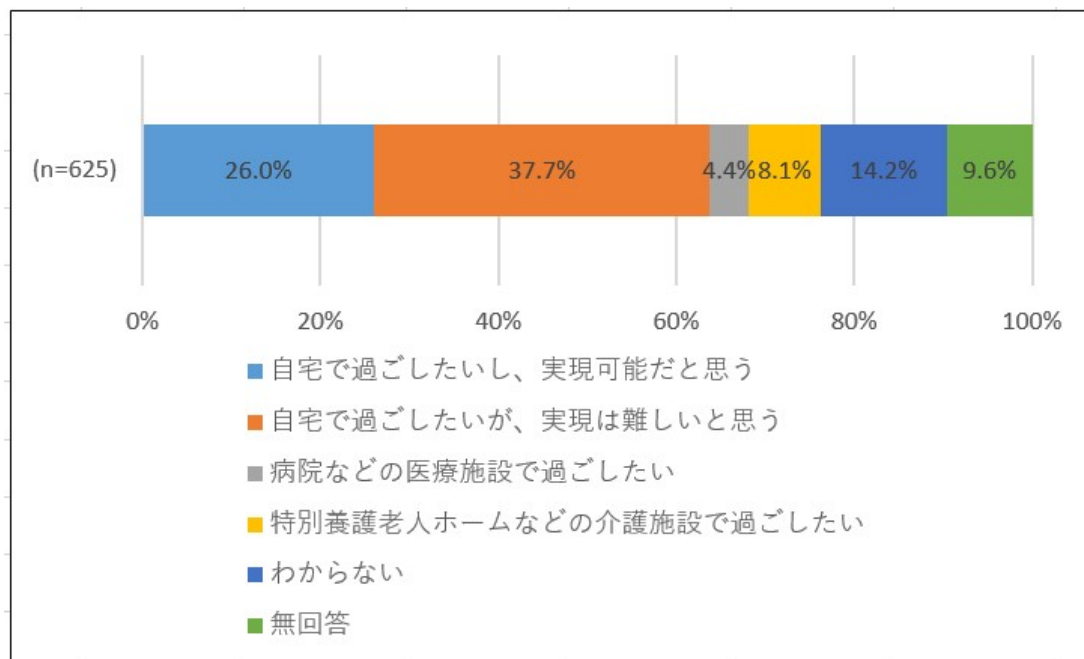
図表 1-9 ★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）



(10) 終末期（人生の最期）を過ごしたい場所

「自宅で過ごしたいが、実現は難しいと思う」の割合が最も高く 38.7%となっている。次いで、「自宅で過ごしたいし、実現可能だと思う（26.7%）」、「わからない（14.6%）」となっている。

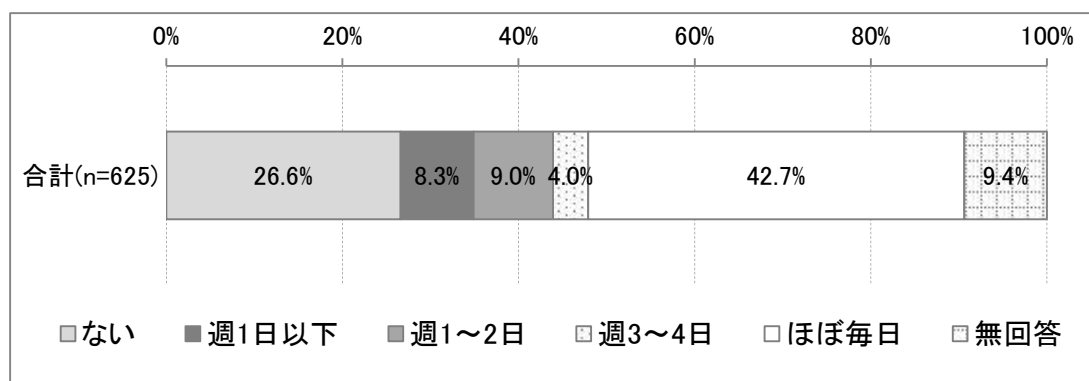
図表 1-10 ☆終末期（人生の最期）を過ごしたい場所（単数回答）



(11) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く 42.7%となっている。次いで、「ない（26.6%）」、「週 1～2 日（9.0%）」となっている。

図表 1-11 家族等による介護の頻度（単数回答）

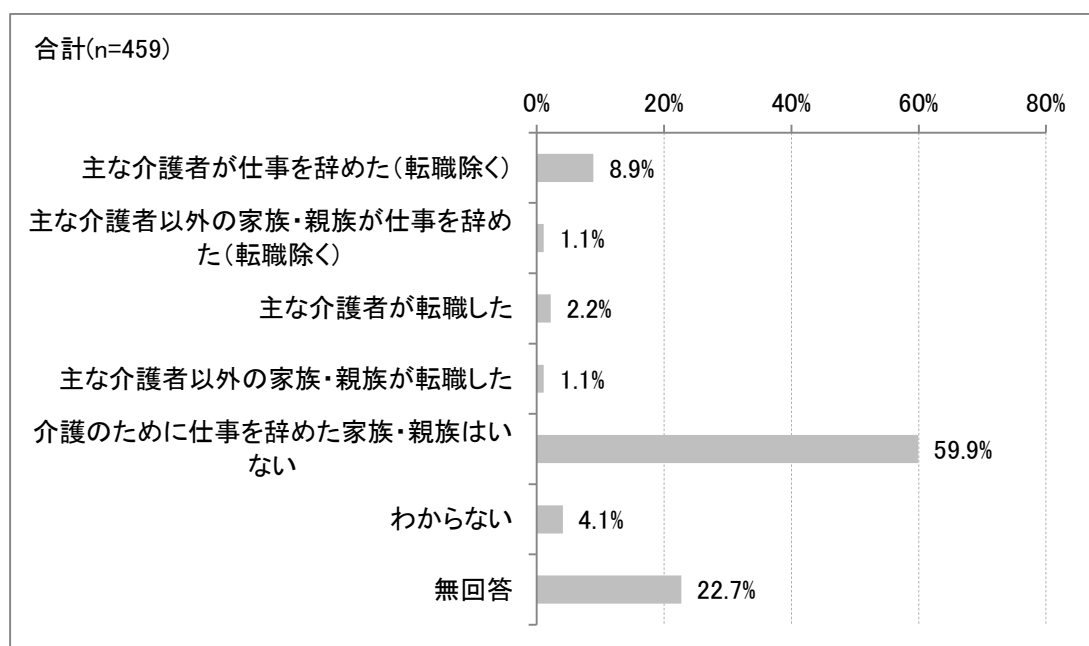


2 主な介護者様用の調査項目（B票）

(1) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 59.9%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（8.9%）」、「わからない（4.1%）」となっている。

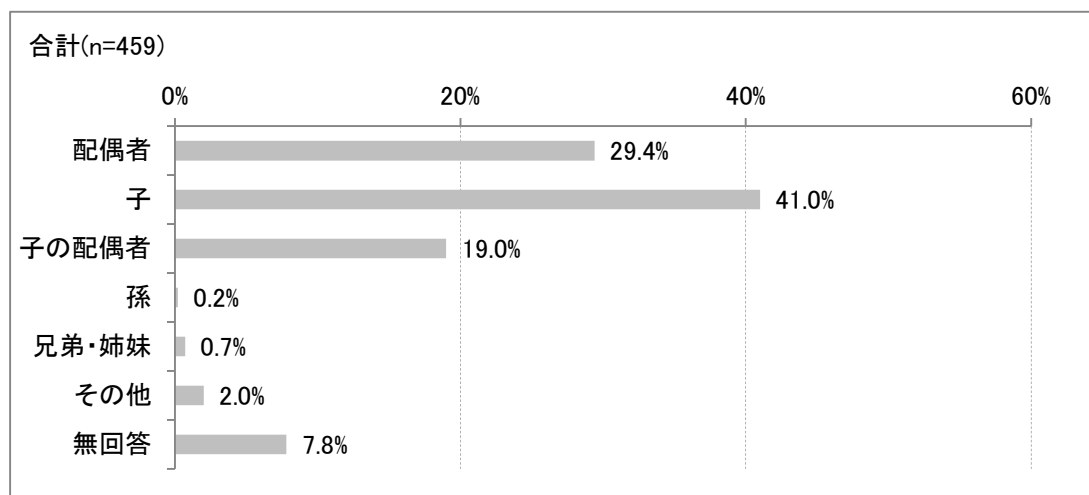
図表 2-1 介護のための離職の有無（複数回答）



(2) 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く 41.0%となっている。次いで、「配偶者（29.4%）」、「子の配偶者（19.0%）」となっている。

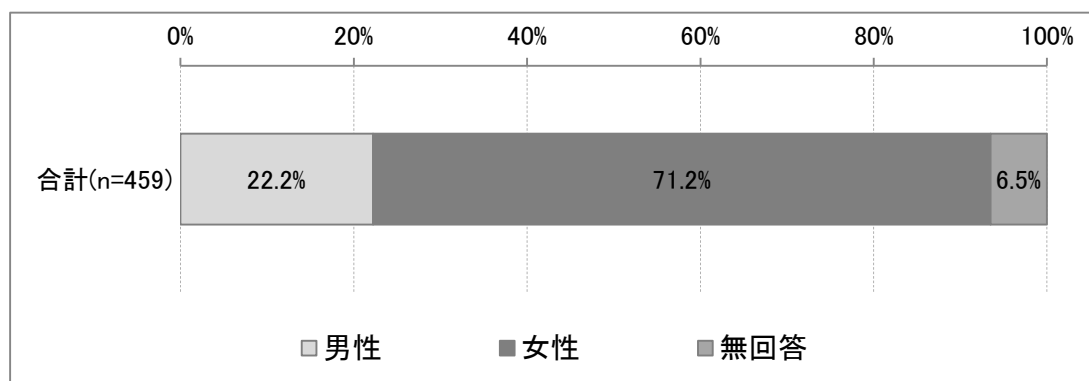
図表 2-2 ★主な介護者の本人との関係（単数回答）



(3) 主な介護者の性別

「女性」の割合が最も高く 71.2%となっている。次いで、「男性（22.2%）」となっている。

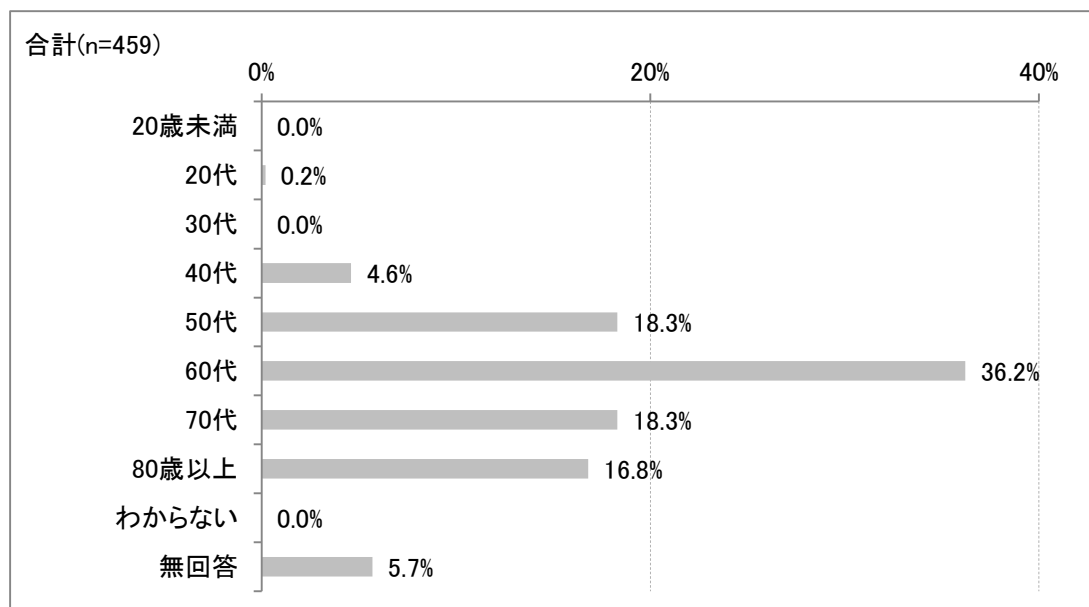
図表 2-3 ★主な介護者の性別（単数回答）



(4) 主な介護者の年齢

「60代」の割合が最も高く 36.2%となっている。次いで、「50代（18.3%）」、「70代（18.3%）」、「80歳以上（16.8%）」となっている。

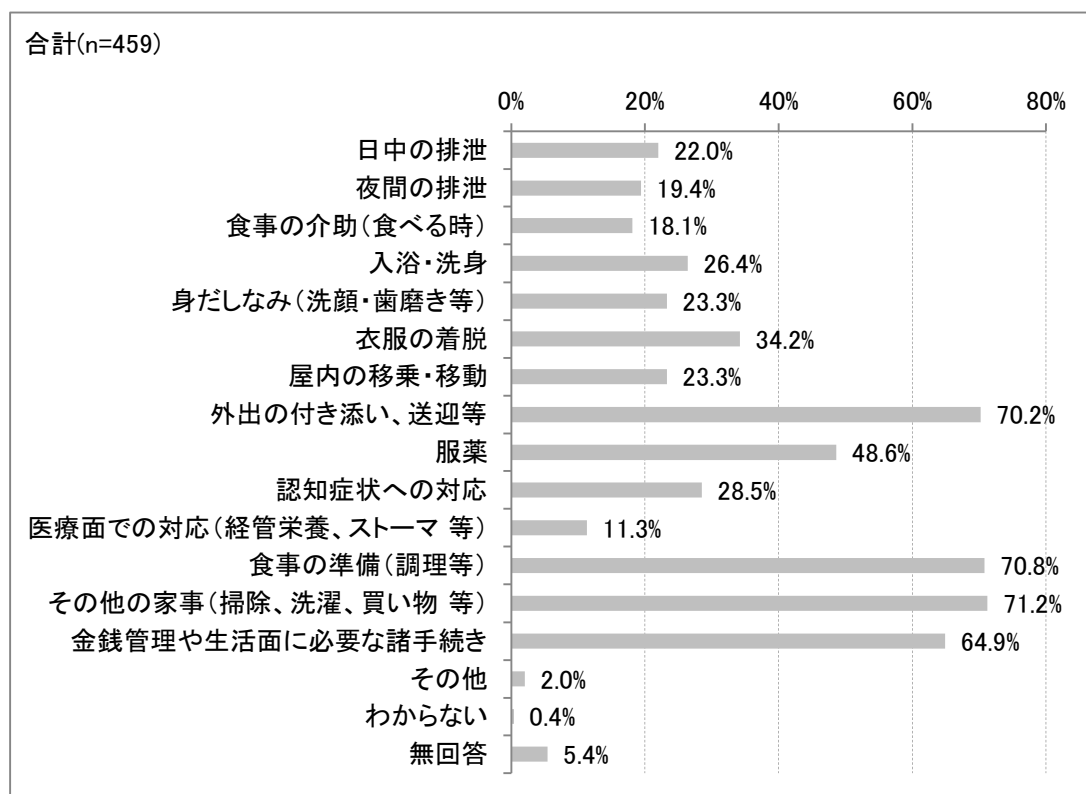
図表 2-4 主な介護者の年齢（単数回答）



(5) 主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が最も高く 71.2%となっている。次いで、「食事の準備（調理等）（70.8%）」、「外出の付き添い、送迎等（70.2%）」となっている。

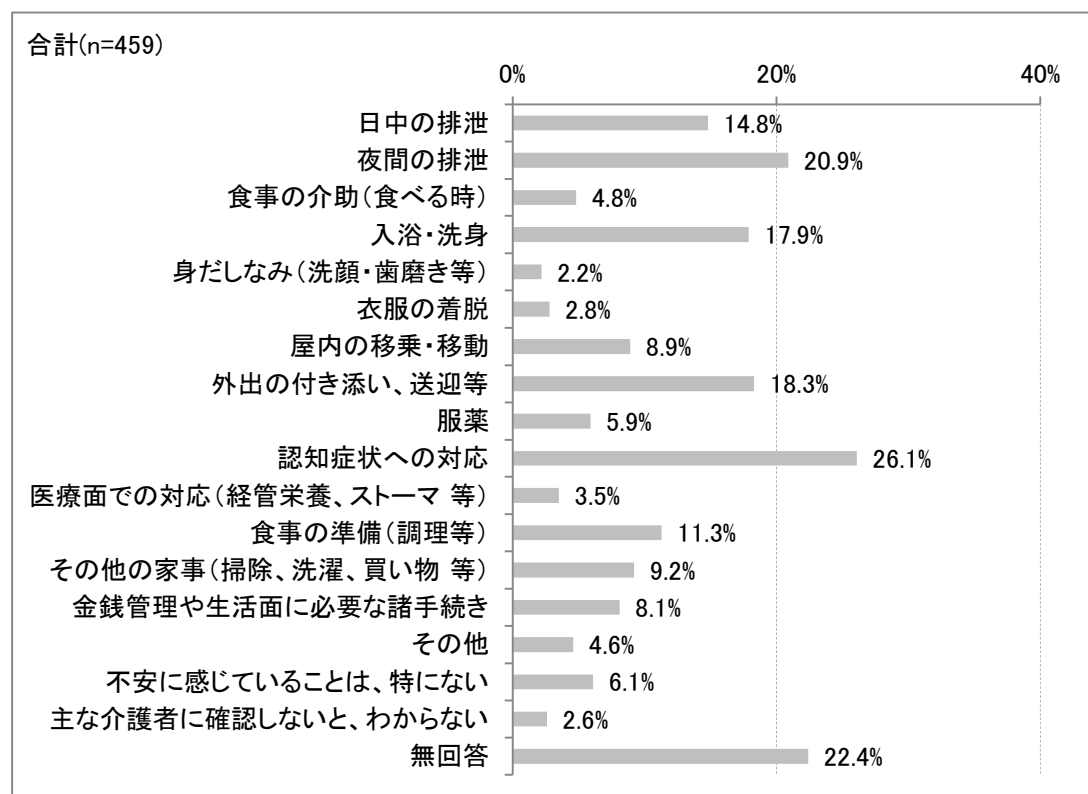
図表 2-5 ★主な介護者が行っている介護（複数回答）



(6) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「認知症状への対応」の割合が最も高く 26.1%となっている。次いで、「夜間の排泄 (20.9%)」、「外出の付き添い、送迎等 (18.3%)」となっている。

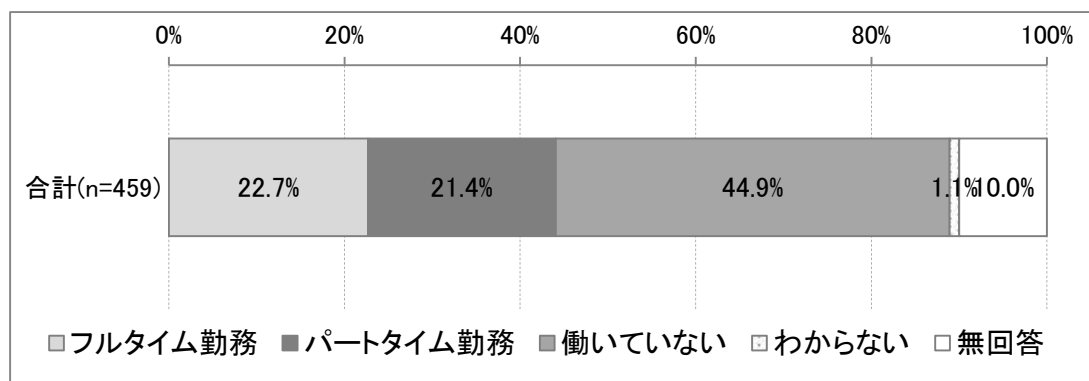
図表 2-6 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



(7) 主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 44.9%となっている。次いで、「フルタイム勤務 (22.7%)」、「パートタイム勤務 (21.4%)」となっている。

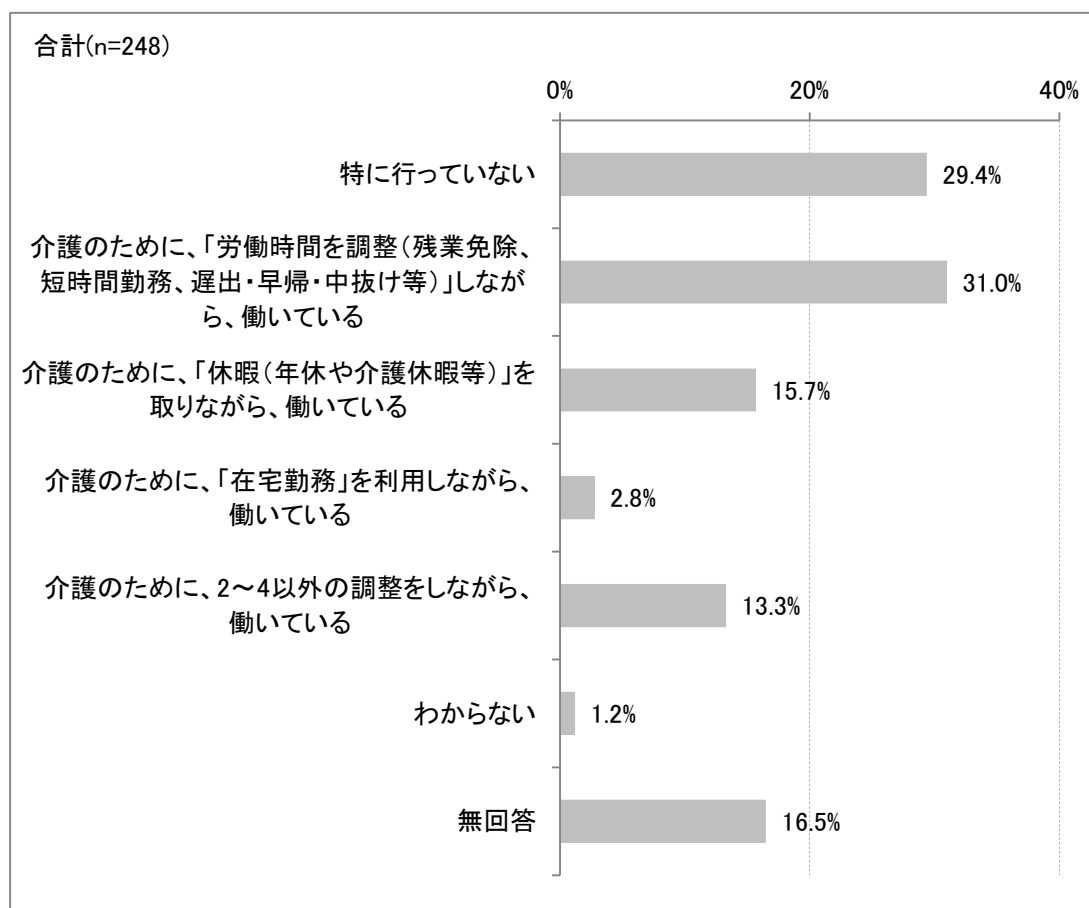
図表 2-7 主な介護者の勤務形態（単数回答）



(8) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が最も高く 31.0%となっている。次いで、「特に行っていない（29.4%）」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている（15.7%）」となっている。

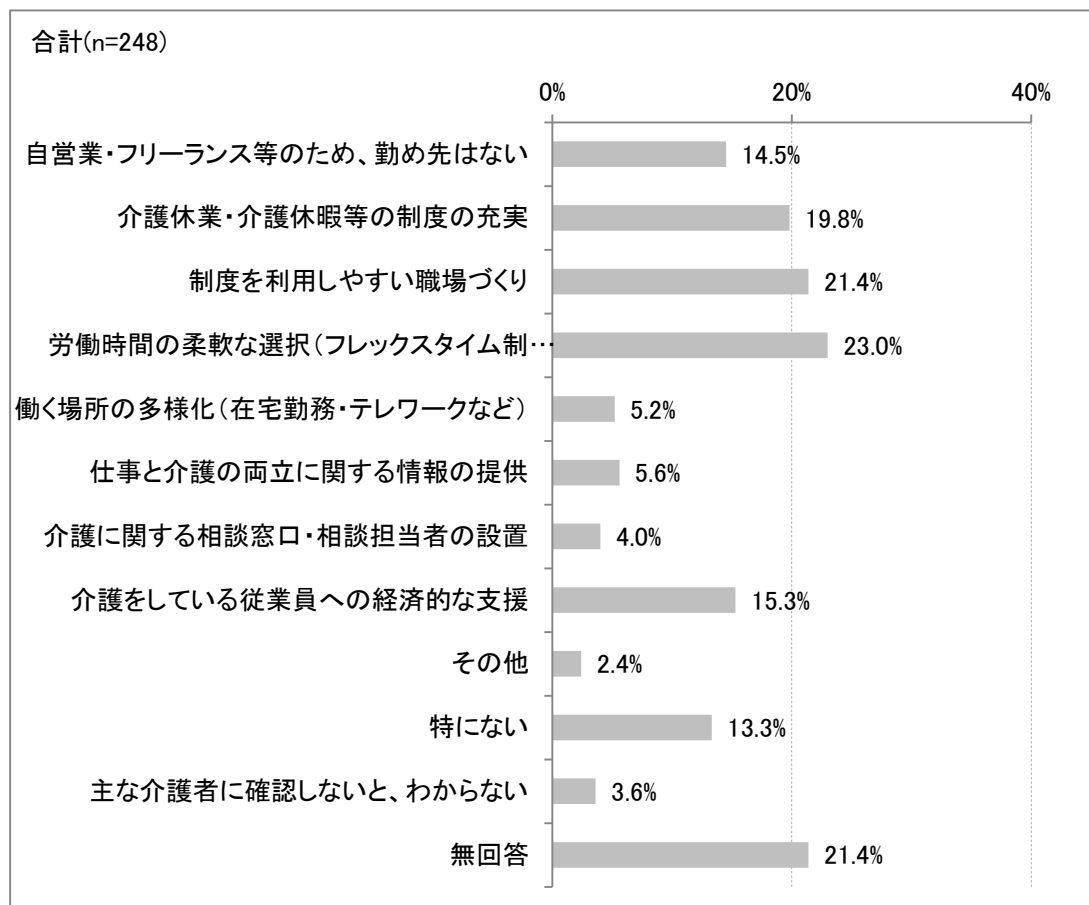
図表 2-8 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



(9) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の割合が最も高く 23.0%となっている。次いで、「制度を利用しやすい職場づくり（21.4%）」、「介護休業・介護休暇等の制度の充実（19.8%）」となっている。

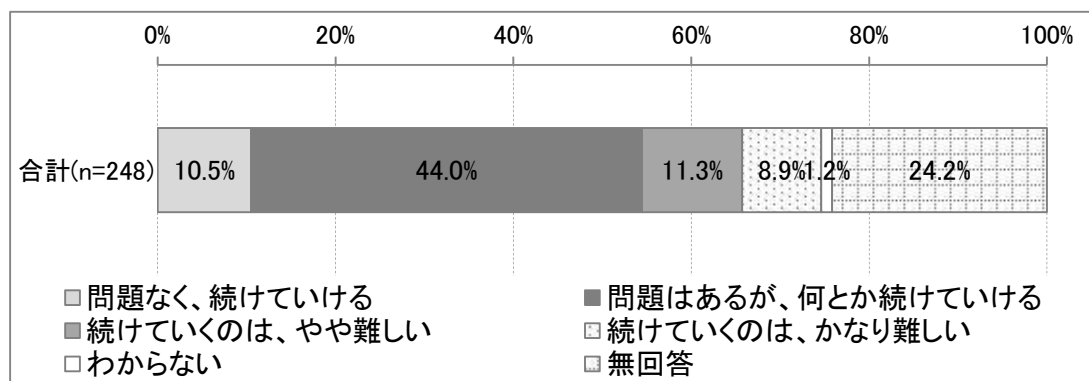
図表 2-9 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



(10) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 44.0%となっている。次いで、「続けていくのは、やや難しい (11.3%)」、「問題なく、続けていける (10.5%)」となっている。

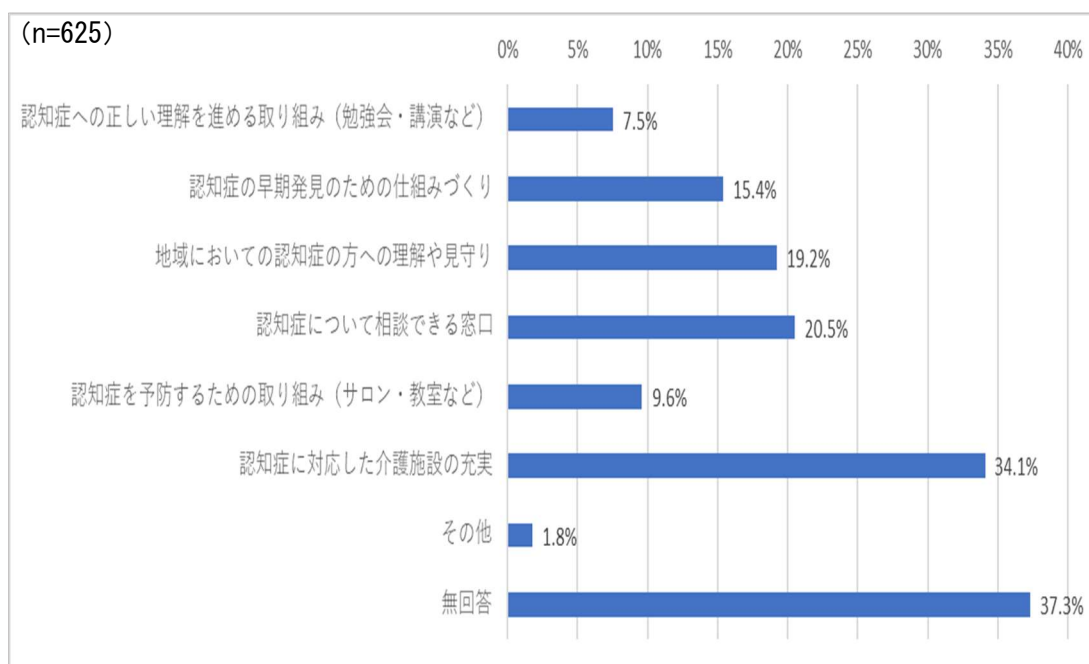
図表 2-10 主な介護者の就労継続の可否に係る意識 (単数回答)



(11) 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと

「無回答」の割合が最も高く 37.3%となっている。次いで、「認知症に対応した介護施設の充実 (34.1%)」、「認知症について相談できる窓口 (20.5%)」となっている。

図表 2-11 ☆認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと (複数回答)

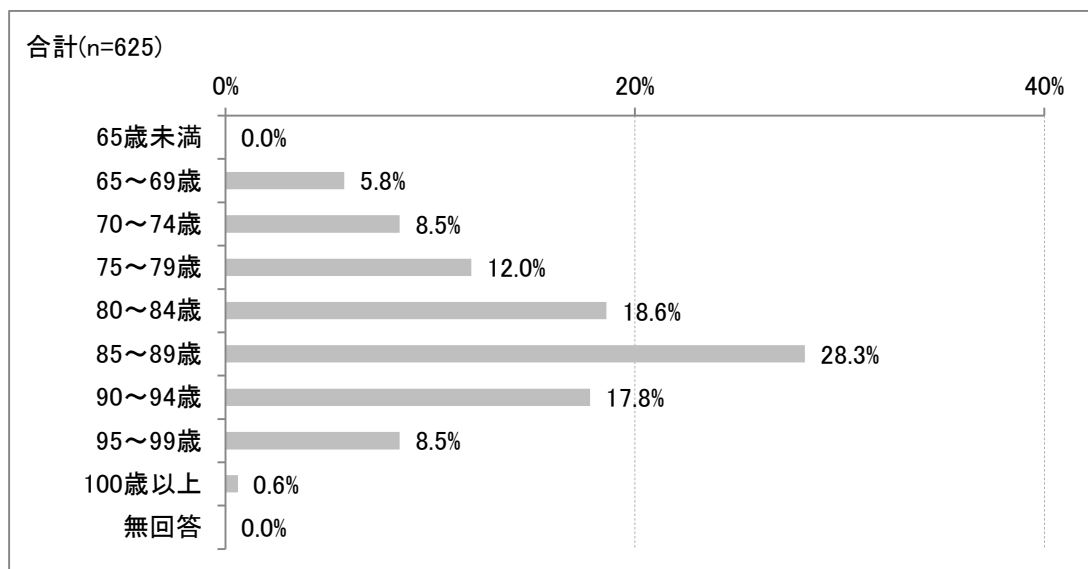


3 要介護認定データ

(1) 年齢

「85～89歳」の割合が最も高く 28.3%となっている。次いで、「80～84歳（18.6%）」、「90～94歳（17.8%）」となっている。

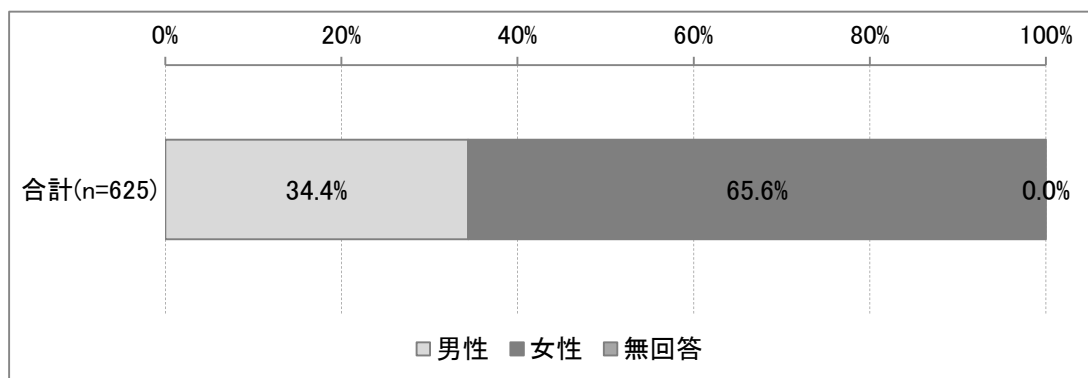
図表 3-1 年齢



(2) 性別

「女性」の割合が最も高く 65.6%となっている。次いで、「男性（34.4%）」となっている。

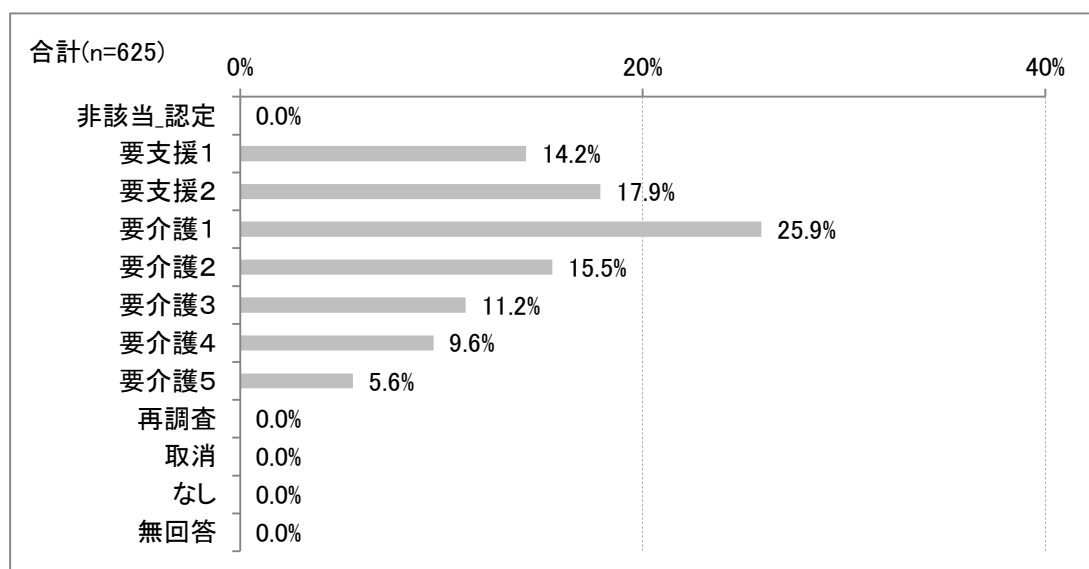
図表 3-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

「要介護1」の割合が最も高く 25.9%となっている。次いで、「要支援2（17.9%）」、「要介護2（15.5%）」となっている。

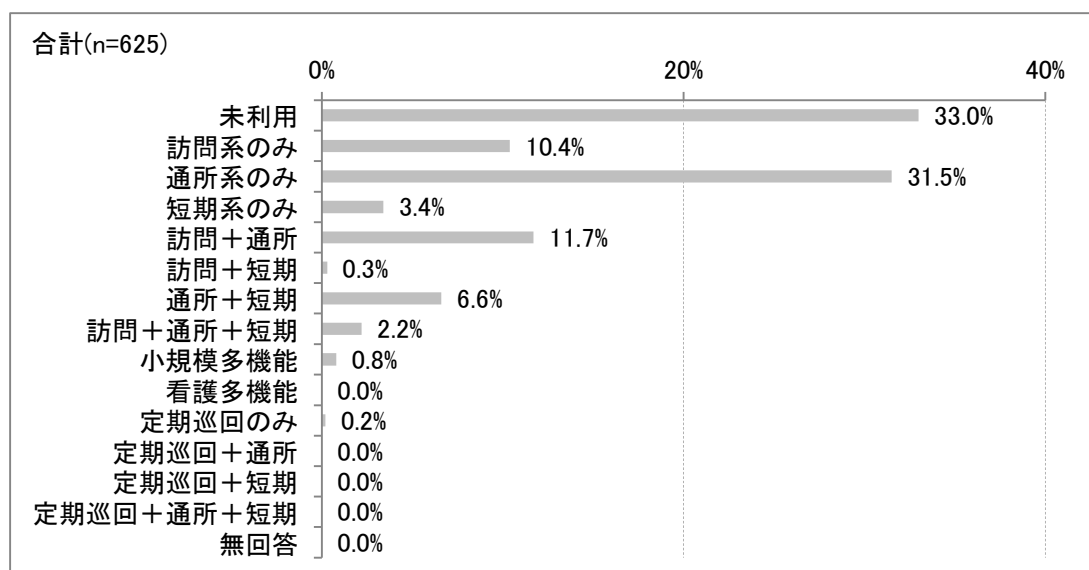
図表 3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

「未利用」の割合が最も高く 33.0%となっている。次いで、「通所系のみ（31.5%）」、「訪問+通所（11.7%）」となっている。

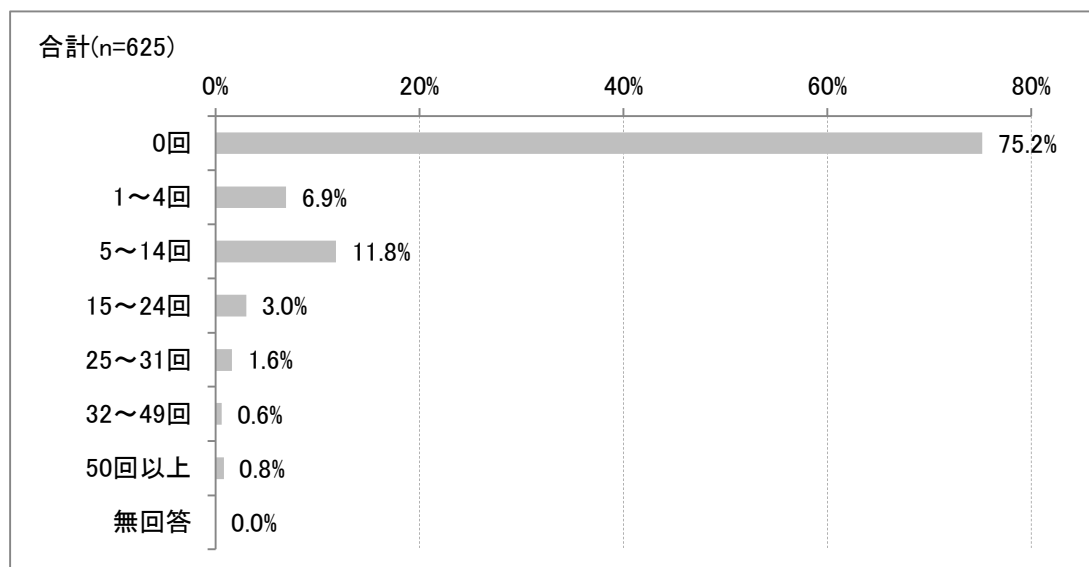
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く75.2%となっている。次いで、「5～14回（11.8%）」、「1～4回（6.9%）」となっている。

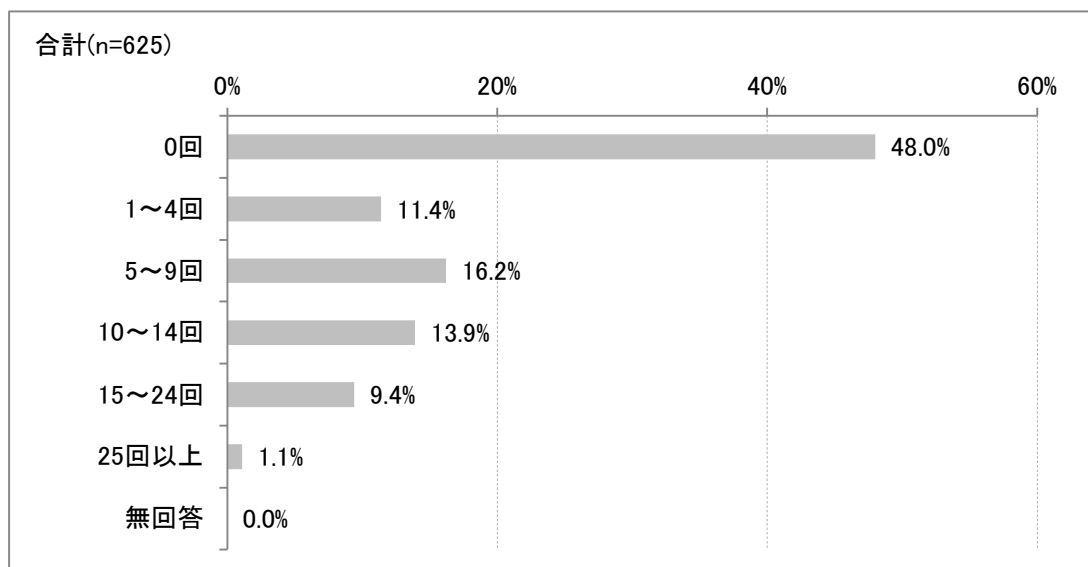
図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 48.0%となっている。次いで、「5～9回（16.2%）」、「10～14回（13.9%）」となっている。

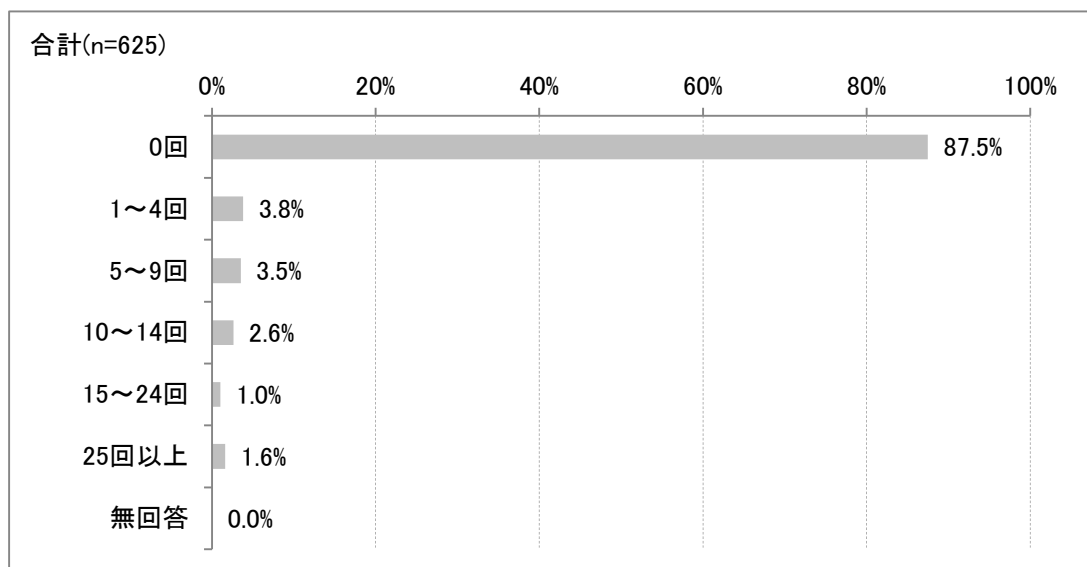
図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 87.5%となっている。次いで、「1～4回（3.8%）」、「5～9回（3.5%）」となっている。

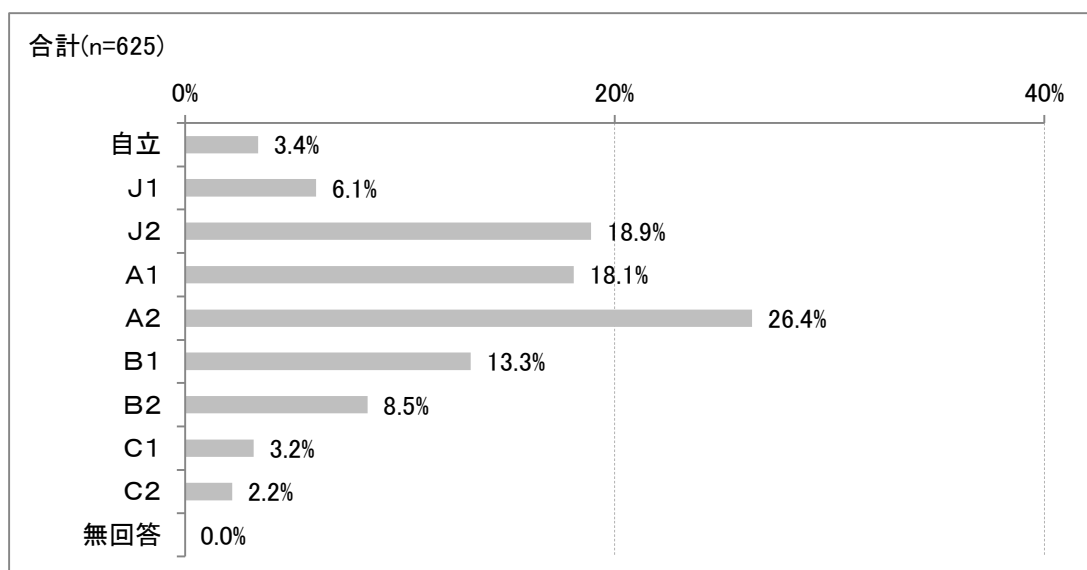
図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「A 2」の割合が最も高く 26.4%となっている。次いで、「J 2（18.9%）」、「A 1（18.1%）」となっている。

図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」の割合が最も高く 26.1%となっている。次いで、「Ⅱ a（19.5%）」、「Ⅰ（15.7%）」となっている。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度

